学校だより　第７号
木城町立みどりの杜木城学園

11月 椎の苗木

令和７年１１月２５日（火）
文責　：　松ノ木　陽平

沖縄修学旅行

１０月１５日（水）から１７日（木）まで６年生が沖縄修学旅行に行ってきました。天気もよく、まずは沖縄の海の青さに驚きました。そして、沖縄戦での本県出身の戦没者が眠る「ひむかいの塔」で平和の会を行い、三百三十八柱を歌いました。その後、ひめゆり平和記念資料館と摩文仁の丘の平和の礎で、改めて平和について考えました。１日目の夜から２日目の午前中までうるま市で民泊でしたので、学園生は班に分かれてホストファミリーの家で過ごしました。民泊では、家族の一員として料理づくりをしたり、釣りに行ったり、観光地に連れて行っていただいたりとたくさんの経験をさせていただきました。充実した滞在だったようで、退村式では別れを惜しむ姿が見られました。午後には、うるま市立勝連小学校の６年生と交流しました。エイサーを披露したり、じゃんけん列車をしたりして交流を深めました。勝連小とは今後も交流を続けていく予定です。３日目は首里城を見学しました。数年前の火事で焼失しましたが、写真で見ても分かりますように復興工事が随分と進んでおり、来年の秋には完了する予定だそうです。その後は国際通りでの自主研修でした。国際通りでは、ブルーシールなどをはじめとする沖縄ゆかりのお店やお土産屋さんで沖縄気分を満喫しました。さらに、６年生のすごいところはゴール地点の県庁前に全員１０分前には集合していたことです。この３日間での成長が今後の学校生活でも生かされるでしょう。

アサギマダラ飛来

６月に５年生・７年生が地域の方と小グラウンドに植えたフジバカマにアサギマダラがやってきました。今年は暑い日が続いたので、昨年より１・２週間遅れの１０月末に飛来しました。昼休みまでじっとフジバカマの蜜を吸っていたので、学園生も確認することができました。また、来年も見られますように。

集団宿泊学習

１０月２９日（水）・３０日（木）の１泊２日で５年生が青島青少年自然の家で集団宿泊学習を行いました。１日目のメインである「しおかぜ追跡ハイキング」では、班ごとに協力しながら自然の中を歩き、設定されたミッションをクリアしていきました。難しい課題にも、仲間と知恵を出し合い、声を掛け合って挑戦していました。２日目のメインは、自然の中で体を動かすフィールドアスレチックでした。ここでは、積極的に声を掛け合う姿が、１日目よりも格段に多く見られました。難しいポイントでは、班員が一体となって作戦を立て、全員がクリアできるようにサポートする、温かい協力体制が自然とできていました。また、時間管理についても成長が見られました。宿泊学習前は教師の指示や声かけが必要でしたが、朝の準備や次のプログラムへの移動など、ほとんどの場面で自分たちでしおりを見ながら時間を意識し、行動できるようになりました。ここでの学びが次年度の修学旅行に生かされることでしょう。

生涯学習のつどい（学校編）

１１月８日（土）に生涯学習のつどい学校編が行われました。これは、地域・保護者の皆様方に、学校や子どもたちのことを少しでもご理解いただき、生涯学習の機会となるようにと企画した地域公開参観日です。学年ごとに公開授業を行い、多くの保護者や地域の方々に参観していただき、充実した一日となりました。

耕心コーナー　義務教育学校の姿

先日、県内に5校ある義務教育学校の関係者が集まり、運営に係る研究会が開催されました。この会は4年目を迎えており、これまでも子供たちにとってより良い環境づくりに努めようとお互いに情報交換をし、各学校ともに特色を出した教育課程を編成してきました。今回も参考になる取組がありましたが、その一つである各学校のふるさと学習は、まさに地域密着型で地域の方々と連携し、素晴らしい活動が展開されています。例えば、島野浦学園の珊瑚礁を守るマリンアクションは、シュノーケリング体験も入り素晴らしいなと感心しました。本学園もこの一年でふるさと学習を再整備しているところですが、より地域の良さを発見し、町内外へ発信できればと考えています。

今回の研究会では、さらに義務教育学校としての特色を発揮していきたいと決意を新たにしたところですが、義務教育学校としての姿を考えるとき、常に念頭にあるのは、中学校3年の卒業時と義務教育学校9年の卒業時の子供たちの成長の違いです。今のところ感覚でしか比較ができないので難しいところですが、私は必ずその違いはあると思っています。例えば、先日は高鍋町、木城町学校音楽祭が行われました。本学園9年生は全員で、「ふるさと」を合唱してくれました。本当に素晴らしいハーモニーで木城の風景が浮かび感慨無量でした。Nコン出場メンバーの合唱も大変会場を沸かせ大きな拍手が鳴り響きました。本学園4年生の合唱、合奏もとても素晴らしかったです。これぞ義務教育学校の姿と思ったところです。

素晴らしい環境のもと義務教育学校としての姿を追求していけば、本学園だけではなく、ふるさと木城の活性化にも必ず貢献できると考えます。そのような意識で努めたいと思います。　（校長）